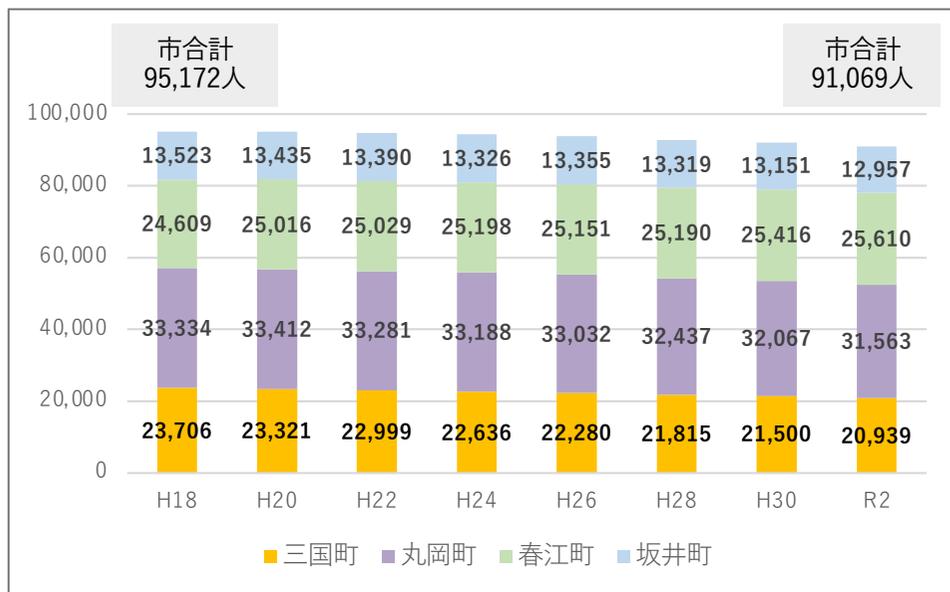


2. 三国エリアを取り巻く状況

エリアの状況

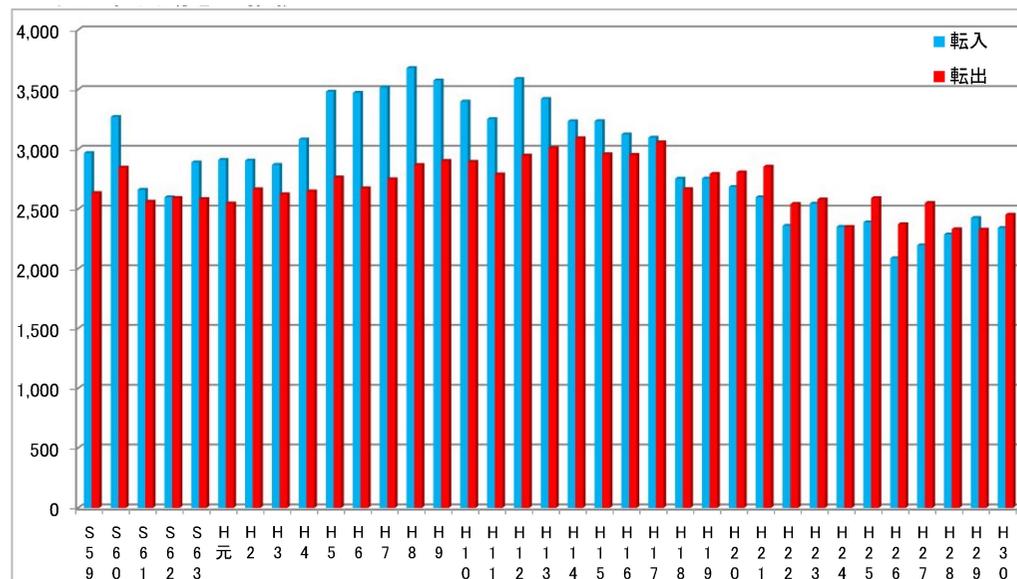
人口

- 市全体の人口はH18年から現在にかけて、微減傾向にあります。坂井市人口ビジョンでは、2060年には人口が6万人まで減少すると予測されており、坂井市の適正な人口規模として8万人を維持することを目標としています。
- R2年の坂井市の人口は91,069人でH30年からR2年にかけて-2.6%減少しており、減少率はH18年以降最大となっています。
- H19年以降、転出入者数の合計がマイナスとなっています。近年の傾向としては、転出者の増加以上に転入者の減少が要因と考えられます。



坂井市の人口推移（地区別）

出典：住民基本台帳（4月時点・H18は合併日3/20時点のデータ）



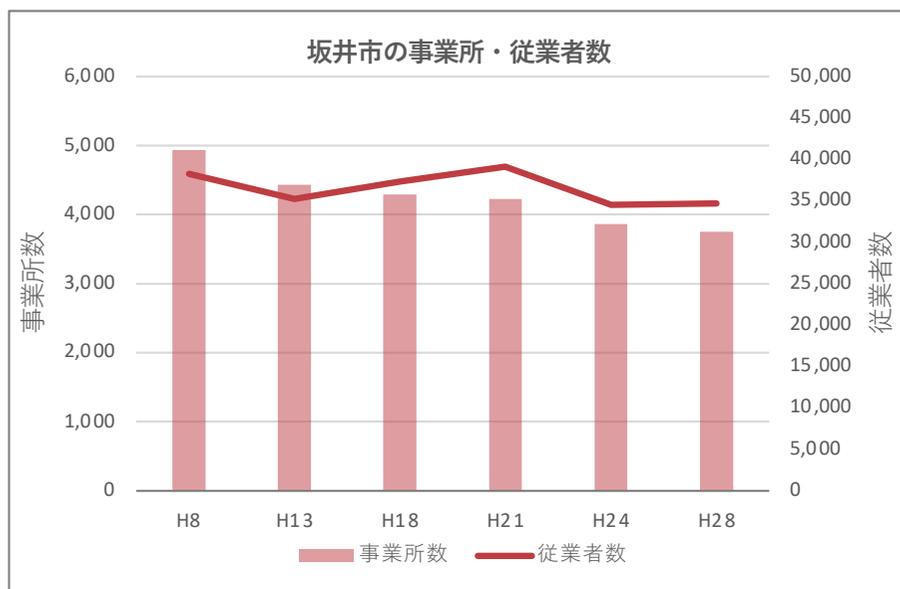
坂井市の社会動態の推移

出典：福井県統計情報課

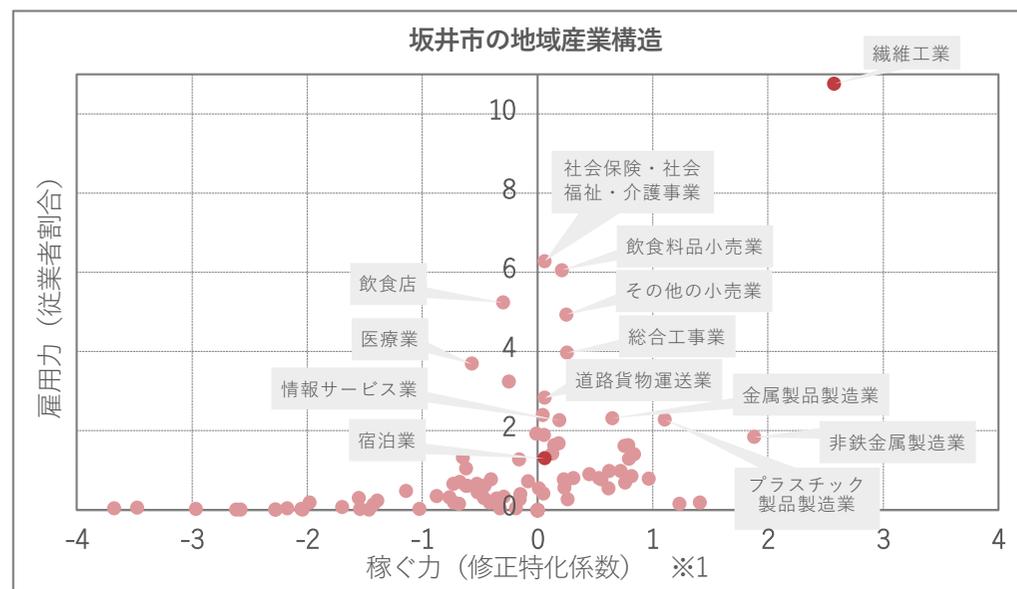
エリアの状況

地域経済

- 市内の事業所数は減少傾向にあります。従業者数は年次によって差がありますが、微減傾向にあります。
- 「非金属製造業」「プラスチック製品製造業」などが地域の稼ぐ力になっており、中でも「**繊維工業**」が稼ぐ力、雇用力共に高く**地域の中核産業**となっています。
- 「社会保険・福祉・介護事業」「飲食料品小売業」なども雇用力のある中核産業となっています。
- 宿泊業は中核産業の一部を担っていますが、他産業と比べ弱い状況です。



出典：事業所・企業統計調査報告書、経済センサス



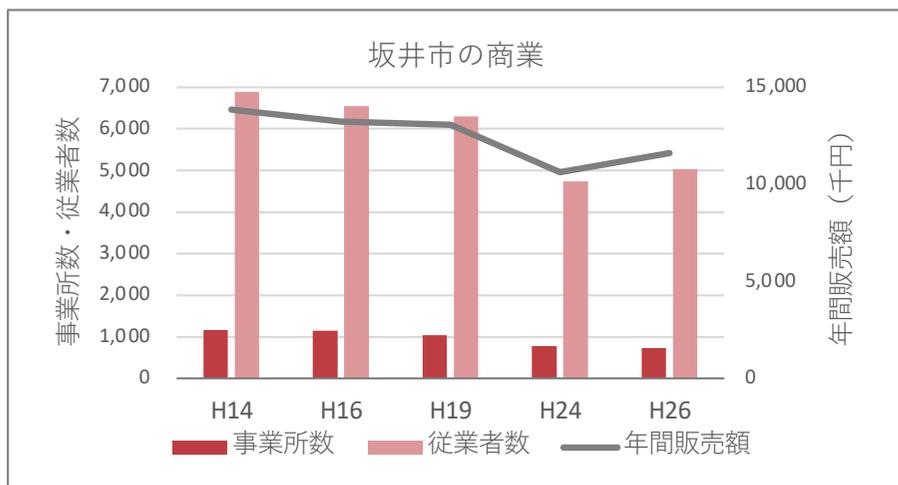
出典：経済センサス（H26.H28）

※1 稼ぐ力：地域のある産業の従事者比率を日本全体の同産業従事者比率で割った値が特化係数。修正特化係数はそれを輸出入額で調整したものの

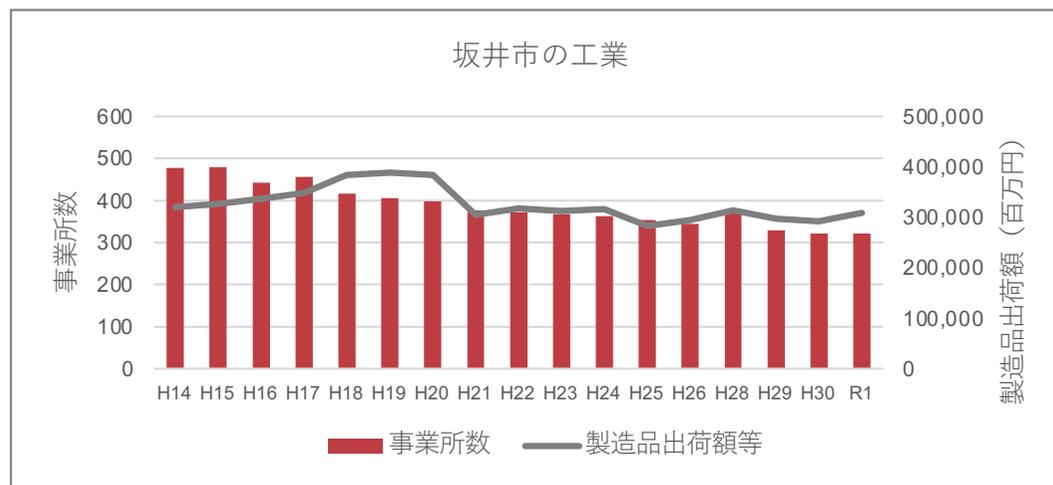
エリアの状況

地域経済

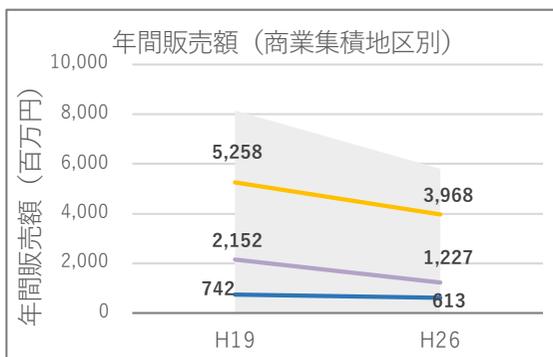
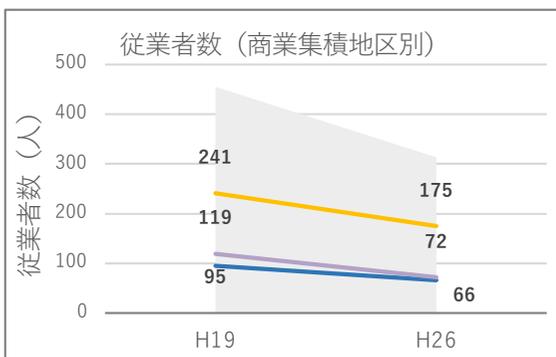
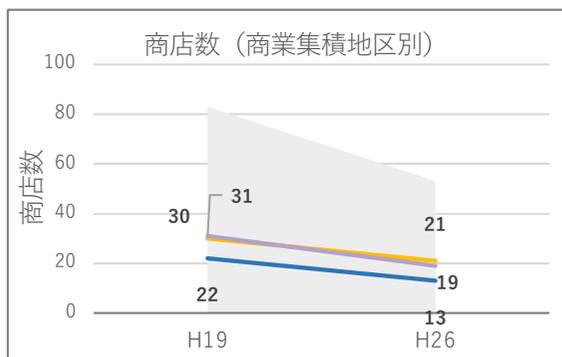
- 市内の商業（卸売・小売業）事業所数は減少傾向にありましたが、H24年からH26年にかけては微増しています。三国エリアの商業集積地区では商店数・従業者数・年間販売額共に減少傾向にあります。
- 市内の工業事業所数はH28年以降微減傾向にありますが、製造品出荷額等は微増傾向にあります。



出典：福井県の商業



出典：福井県の工業（R1年の数値は速報値）H27年はデータなし

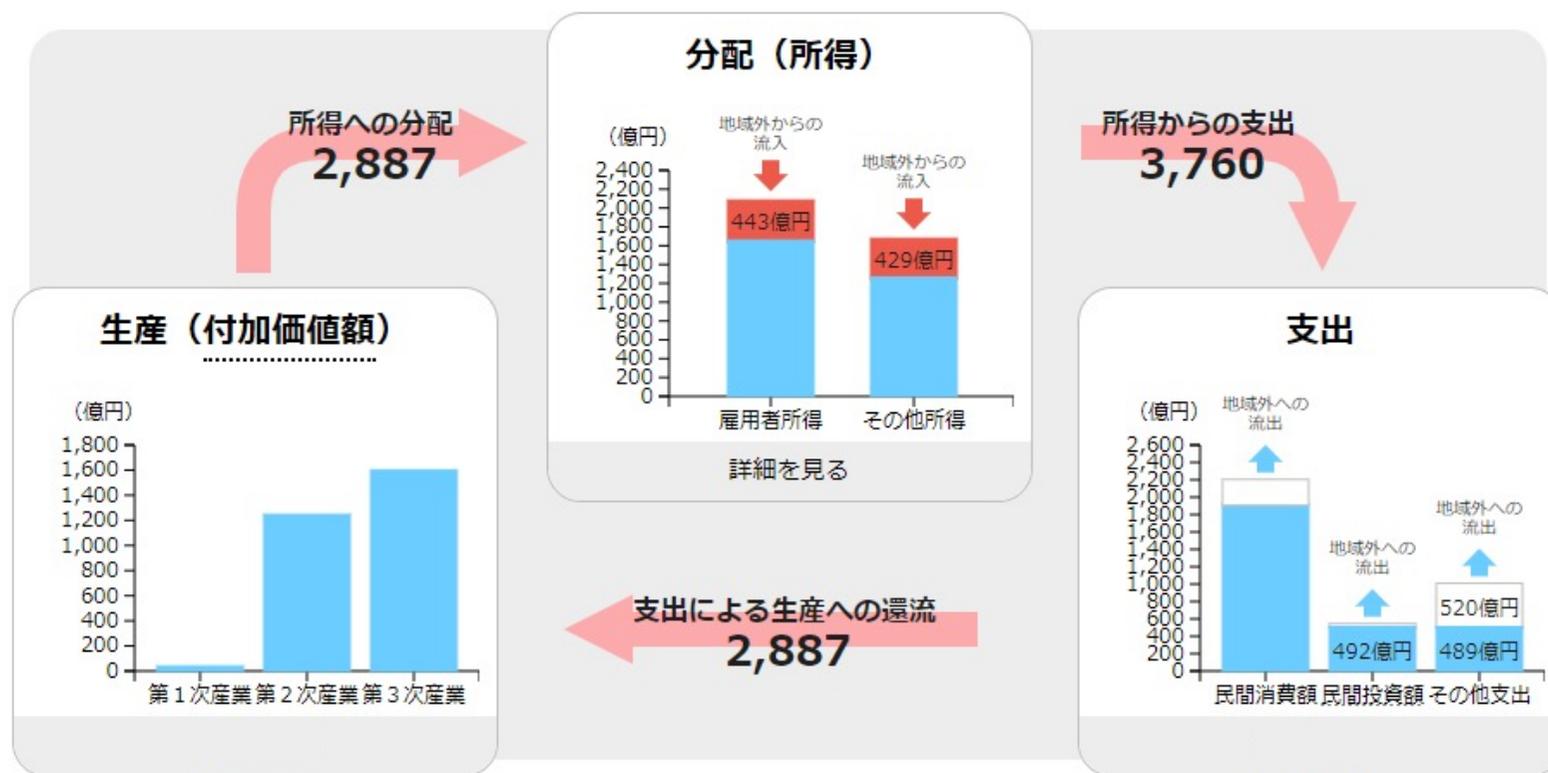


三国町
東尋坊商店街
ショッピング・ワールド・イザ
本町商店街
出典：福井県の商業

エリアの状況

地域経済

- 地域経済循環率※1は76.8%となっており、周辺市と比べると低い水準となっています。（福井市：105.3%、あわら市：105.3%）
- 特に民間消費の市外流出が多く（支出流出入率-13.5%）、全国1,719市区町村中、1,294位となっています。



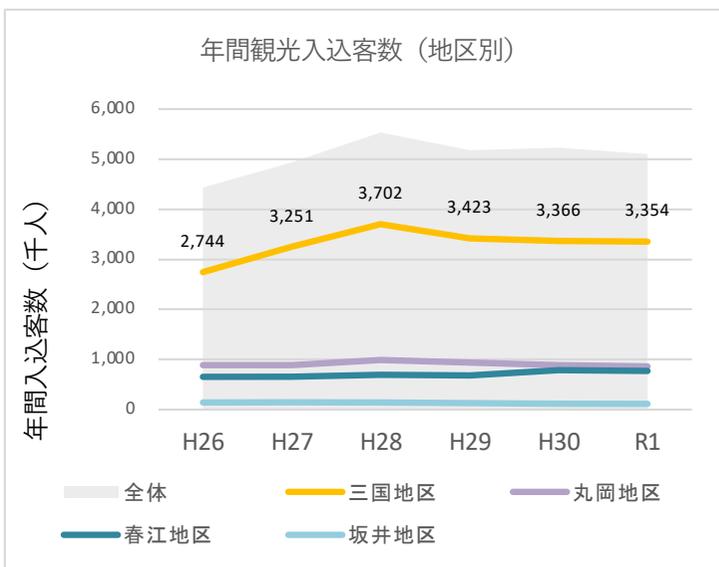
坂井市の地域経済循環図（2015年） 出典：RESAS地域経済循環分析

※1 地域経済循環率：生産（付加価値額）を分配（所得）で除した値で地域経済の自立度を示している。
低いほど他地域から流入する所得に対する依存度が高い。

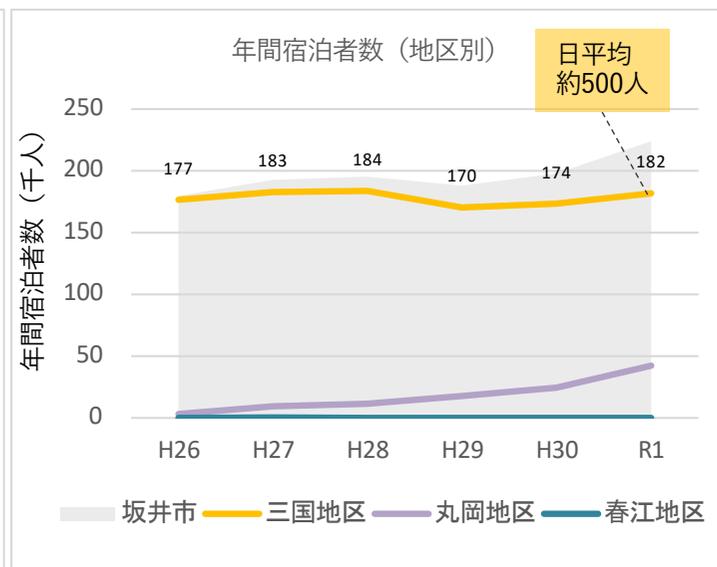
エリアの状況

観光・宿泊

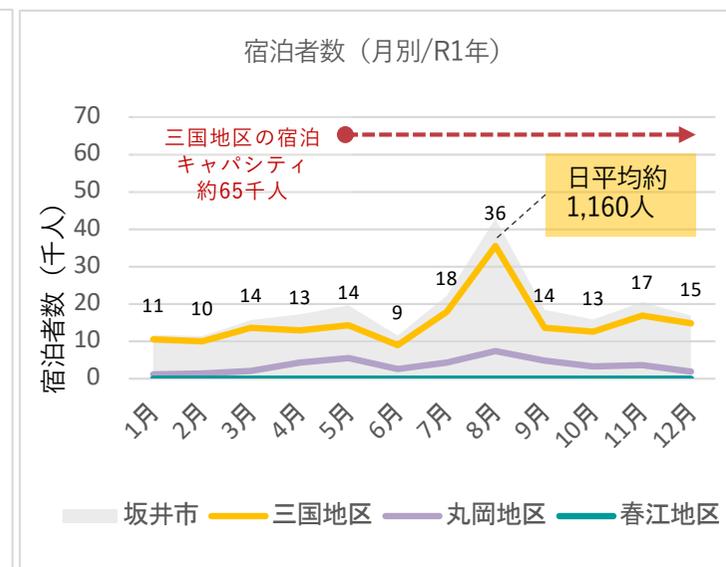
- 観光入込客数はH28年をピークに微減傾向にあります。市全体の入込客数の6～7割を三国地区が占めています。
- 宿泊者数は横ばい傾向にあります。市全体の宿泊者数の約8割を三国地区が占めています。
- 月別の宿泊者数をみると、8月に大きなピークがあり、ピーク時の宿泊者数は日平均1,160人と年平均の2倍以上の宿泊需要があることがわかります。



出典：福井県観光入込客数推計調査および坂井市観光交流課調査



出典：坂井市観光交流課調査



出典：坂井市観光交流課調査

エリアの状況

自然環境



- 三国エリアの海岸部は「**越前加賀海岸国定公園**」に指定されています。
- 東尋坊や越前松島、雄島など、海に面した崖地による豊かな自然景観を有します。
- 三国湊町では、西の日本海に向かって流れる竹田川・九頭竜川が景観的なランドマークとなっています。